

## 報告文献別一覽表

## 報告文献別一覧表(医療機器)(2005/4/01~2005/11/30)

| 番号 | 感染症(PT)   | 出典   | 概要  |
|----|-----------|--|---|
| 1  | HEV       | 肝臓 45: 688-688, 2004                                 | 北見日赤病院にて患者1名がE型劇症肝炎により死亡。焼肉店にて患者と同会食した親族を含め、HEVIに陽性が明らかになったことから、加熱不十分なブタ肝の摂取が重視すべき感染源である。   |
| 2  | HEV       | Journal of Clinical Microbiology 43: 1684-1688, 2005 | HEVIには4つの主要な遺伝子型があり、豚からのHEV分離株は遺伝子型3または4に属する。遺伝子型1および2のHEVはヒトのみ認められる。遺伝子型1および2のHEVが豚に存在するか検討した結果、ヒト遺伝子型1または2が流行している国の豚において、遺伝子型1、2は豚HEVIには存在しないことが示された。人畜共通の可能性があるのは、遺伝子型3および4のHEVのみであると考えられた。  |
| 3  | HEV       | 総合臨床 54: 463-70, 2005                                | 新興感染症としてのE型肝炎について。1997年に米国で常在国への渡航歴のない症例から、日本固有と考えられる(JRA-1株)が報告された。その後、これまで原因不明とされてきた急性肝炎の一部はHEVによって引き起こされていることが明らかになってきている。   |
| 4  | HEV       | Mem Inst Oswaldo Cruz 100: 117-122, 2005             | ブラジル南東における種々の動物でのHEVの血清学的な証拠。   |
| 5  | HEV       | Journal of Clinical Microbiology 43: 3042-3048, 2005 | 韓国における新規のヒトHEV分離株の識別とHEVの血清陽性率の測定について。  |
| 6  | HEV       | Tohoku J. Exp. Med 206:173-179, 2005                 | E型肝炎ウイルス(HEV)は多くの発展途上国における急性肝炎の主要原因の1つであるが、最近の集中検査により、工業先進国の非輸入症例が明らかになった。症例は急性肝炎の25歳の日本女性。その発症数年後にHEVIに対する血清抗体の試験が可能となり、凍結保存しておいた血清を調べた結果、急性E型肝炎と診断され、急性突発性肝炎の診断にはHEV感染を考慮する必要性が示唆された。   |
| 7  | HEV       | ウイルス 54: 243-248, 2004                               | 日本におけるE型肝炎(HEV)について述べており、HEVの集団発生3例が報告されている。それぞれの原因は野生イノシシの生の肝臓、野生シカの刺身、イノシシのバーベキューであった。野生イノシシおよび野生シカのHEV抗体、HEV RNA陽性率について報告されている。イノシシ、シカ、ヒトという異種間HEV感染が起こった可能性を示唆する系統樹解析結果が示され、飼育ブタはほぼ100%HEVIに感染している。ブタからヒトへの感染について論じられ、またイノシシ、シカ、ブタ以外の動物のHVE感染についても述べられている。  |
| 8  | HEV       | Medical Practice 22: 860-862, 2005                   | 日本におけるE型肝炎についての解説。E型肝炎は人獣共通感染症で、ブタレバー、イノシシ肉のバーベキューの食事で死亡を含む患者の発生があった。   |
| 9  | HEV       | Journal of General Virology 84: 2351-2357, 2005      | 2001~2002年に、北海道で発散的に発生した急性ないし劇症E型肝炎の感染症10例のうち、9例において調理された豚レバーを食べた履歴があった。そこで北海道の食肉売り場にて販売されている生の豚レバーについてPCRにてE型肝炎ウイルス(HEV)の存在を調べたところ、363例中7例(1.9%)にウイルスRNAが検出された。この検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との相当性が認められた。これらの結果から不十分な豚レバーの調理が、HEVのヒトの伝播をもたらす可能性が示唆された。 |
| 10 | トリインフルエンザ | 現代化学 404: 27-31, 2004                                | 新型インフルエンザウイルス遺伝子は、すべて自然界のゲノムプールである水禽(カモ)のウイルスに起源があることから、カモ、家畜とブタのインフルエンザの疫学調査を地球規模で実施し、ウイルスの分布を明らかにすれば、これから出現する新型インフルエンザウイルスの亜型を予測し予防対策をとること出来る。  |
| 11 | トリインフルエンザ | 化学療法の領域 20: 1655-1661, 2004                          | インフルエンザAウイルスの宿主域とレセプター特異性についての解説。A型インフルエンザウイルスのレセプター認識、及びインフルエンザAウイルスの宿主間伝播(鳥由来ウイルスの馬・海生ほ乳動物・ミンク・豚への宿主間伝播、人由来インフルエンザAウイルスの豚への宿主間伝播、豚由来のインフルエンザAウイルスの人へ宿主間伝播)についての述べている。さらに、世界規模で流行する新型インフルエンザウイルスのブタ体内での2つの発生機序、及び鳥からヒトへの伝播(香港の流行例)を示している。                      |
| 12 | トリインフルエンザ | Science 305: p1385, 2004                             | 鳥インフルエンザ株H5N1が猫に感染させることができ、またネコ科動物が他のネコ科動物にウイルスを伝播し、ヒトにも伝播させる可能性を裏付けた。WHOのウイルス学専門家によると、ブタ集団にH5N1が定着するとの徴候はまだないが、H5N1が発見された国々にブタの調査を行うよう促している。   |
| 13 | トリインフルエンザ | OIE Disease Information 18 (21): (27 March 2005)     | インドネシアにてブタからトリ由来インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が検出されたが、トリインフルエンザの臨床的徴候を示したブタはいなかった。さらなる調査にて血清学的検査の結果は全て陰性であった。  |
| 14 | トリインフルエンザ | ProMED   | 2005年5月、インドネシアにおいてはじめて、ブタが高病原性トリインフルエンザウイルスH5N1に感染していることが示された。7月には同国初のトリインフルエンザ感染による死者が発生した。  |

| 番号 | 感染症(PT)   | 出典                      | 概要  |
|----|-----------|-------------------------|---|
| 15 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 7月31日、カザフスタンのPavlodar地区でトリインフルエンザの症状を呈した20才の男性が入院した。その地区では、トリインフルエンザの流行で2005年7月20日から30日の間に600羽のガチョウが死んだ。  |
| 16 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月2日、Novosibirsk地区での流行は2005年7月初旬に始まり、数千羽の家禽を殺した。国の獣医局は2005年7月最終週にH5N1株を確認した。ロシアでは今までヒト患者は報告されていない。  |
| 17 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月3日、英国と米国の研究班は、H5N1型トリインフルエンザウイルスが変異してヒトヒト感染が可能になったときにおこるシナリオを、コンピュータを用いて試算した。結果は、2百万～4百万の人命が奪われた1918年のスペインでのインフルエンザ流行規模の死者が出る可能性があるという。   |
| 18 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月10日、ホーチミン市にあるパスツール研究所は、2005年7月末に死亡した南部のBen Tre省出身の30才男性患者が、検査でH5N1型ウイルス陽性であったと発表した。この患者はBen Tre省で初のH5N1型ウイルスによる死亡患者である。   |
| 19 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月10日、首都ジャカルタ近郊で一家3人の死因となったトリインフルエンザウイルスの感染源に関するインドネシア当局の調査で、感染源を特定できなかった。  |
| 20 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月8日、ロシアのシベリア地方でのトリインフルエンザ感染は拡大している可能性があるが、これまでのところヒトには感染していない。   |
| 21 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月7日、トリインフルエンザの流行株に対して予防効果があると考えられるワクチンがヒトでの臨床試験で成功した、と政府の研究者が明らかにした。   |
| 22 | トリインフルエンザ | ProMED                  | 8月9日、ベトナムで新たに1名がトリインフルエンザで死亡し、アジアでの死者総数が62名になった。  |
| 23 | トリインフルエンザ | OIE                     | 8月8日野生のアヒル、ガチョウおよび白鳥(渡り鳥)。合計80羽のトリが死亡しているのが発見された。病因トリインフルエンザウイルスA型。サブタイプの同定が進行中である。   |
| 24 | トリインフルエンザ | Health Canada           | 7月20日、インドネシア保健省はトリインフルエンザA(H5N1)による同国で初めての死亡症例を報告した。この症例は38才男性で2005年7月2日に発症し、7月12日に死亡した。この男性の1才および8才の娘もまたトリインフルエンザ様症状を発症し、7月9日および14日に呼吸困難により死亡した。この男性からの検体は検査でトリインフルエンザA(H5N1)に陽性を示した。                    |
| 25 | トリインフルエンザ | Health Canada           | 8月5日、WHOはベトナムにおける新規H5N1トリインフルエンザヒト感染症例3例を報告し、2004年12月中旬以降のトリインフルエンザ症例が合計63例となり、そのうち20例が死亡している。  |
| 26 | トリインフルエンザ | Health Canada           | 2004年12月～現在までにWHOが確定したヒト症例および家禽のアウトブレイク(カンボジアにおけるヒトの総症例数4例、死亡総数4例、タイにおけるヒトの総症例数0例、死亡総数0例、ベトナムにおけるヒトの総症例数63例、死亡総数20例、インドネシアにおけるヒトの総症例数1例、死亡総数1例)(ベトナムにおける1例のインフルエンザA H5サブタイプによる感染は検査によりNサブタイプは不明と確定されている)。 |
| 27 | トリインフルエンザ | WHO                     | 2004年12月16日～2005年現在(8月5日)までにインドネシアにおいて総症例1例(死亡1例)、ベトナムにおいて総症例63例(死亡20例)、タイにおいて総症例0例(死亡0例)、カンボジアにおいて総症例4例(死亡4例)が報告され、この期間の合計症例数は68例(死亡25例)である。   |
| 28 | トリインフルエンザ | HPA CDR Weekly          | 家禽および野鳥におけるトリインフルエンザ感染症は多くの国々(最初の感染は2004年)で継続しており、ロシアにおける最近のH5N1アウトブレイクは、感染した渡り鳥によりヨーロッパにH5N1が拡大する高い懸念をもたらしている。   |
| 29 | トリインフルエンザ | Nature 435: 390-1, 2005 | インドネシアのブタよりトリインフルエンザが確認された。   |
| 30 | トリインフルエンザ | 共同通信社                   | 鶏に高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)が流行しているインドネシアで豚にも感染が起きていることを、同国アイルランガー大と河岡義裕東大教授らの研究チームが19日までに、豚から分離したウイルスの遺伝子解析で突き止めた。  |
| 31 | トリインフルエンザ | 共同通信社                   | 中国青海省の青海湖で鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染した渡り鳥から検出したウイルスを解析した結果、中国南部の家禽(かきん)から伝わったとみられることが判明、今後、南アジアや欧州にも感染が広がる恐れがある。  |
| 32 | トリインフルエンザ | 共同通信社                   | 7月15日、ジャカルタ郊外のバンテン州で12日から14日にかけて死亡した父娘3人が、毒性の強い高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染していた疑いが極めて強いと発表した。   |
| 33 | トリインフルエンザ | 共同通信社                   | 7月以降、フィリピンで初の発生が確認されたほか、インドネシアとベトナムではウイルスの人への感染により計6人が死亡。同月下旬にはロシア・シベリアやカザフスタンで鶏やアヒルが大量死するなど、これまでにない拡散ぶり、流行の懸念は欧州にも広まっている。  |

| 番号 | 感染症(PT)   | 出典  | 概要  |
|----|-----------|---|---|
| 34 | トリインフルエンザ | 共同通信社   | カザフスタン北部や東部で大量の鶏などが死んだ鳥インフルエンザのウイルスは、毒性の強いH5N1型と判明したと発表した。これまでのところ人への感染は確認されていない。   |
| 35 | トリインフルエンザ | 共同通信社   | 中国チベット自治区ラサ周辺にある飼育場でこのほど、多数の家禽(かきん)類が鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染して死んだ。   |
| 36 | トリインフルエンザ | WHO HP<br><a href="http://www.who.int/bulletin/volumes/83/5/infocus0505/en/index.html">http://www.who.int/bulletin/volumes/83/5/infocus0505/en/index.html</a> | 専門家達は高病原性トリインフルエンザH5N1の広範囲発生は世界中で数百万の人々を死亡させることを警告している。H5N1はすでに2つの特徴(ヒトに感染する、重度の疾病の原因となる能力)を示している事、インフルエンザ流行準備計画を構築もしくは更新するよう強く要請していること、カナダ、日本、英国、米国などは既にプロトタイプのH5N1インフルエンザワクチンの開発のためにワクチン製造会社との話し合いが行われていることなどが記載されている。  |
| 37 | トリインフルエンザ | OIE Disease Information 21 (18): (27 May 2005)  | インドネシアでの高病原性鳥インフルエンザH5N1型について追加報告。Banten州Tangerang地区で、検体採取法により、3つの調査が実施され、検体187件が採取された。これらの調査にて鳥インフルエンザの臨床的徴候を示したブタはいなかった。  |
| 38 | トリインフルエンザ | Emerging Infectious Diseases 10: 2156-2160, 2004  | 1989年、米国のブタ集団に新規H3N2交雑ウイルスが出現した。我々は、2003年に米国から地理的に離れた2箇所の飼育場で起こったウイルスのシチメンチョウへの種間伝播についての報告。   |
| 39 | トリインフルエンザ | International Journal of Medical Science 2: 87-90, 2005   | 1918-1919年でのインフルエンザ汎流行におけるトリとの関連性について。  |
| 40 | トリインフルエンザ | ProMED Animal Net Archives 14 May 2005  | ジャワ島のブタからH5N1型トリインフルエンザウイルス株を発見した。同型のウイルスは東南アジア各地でトリからヒトに感染伝播し死亡患者あり。中国の科学者が発見したH5N1型ウイルスについては詳細不明。   |
| 41 | トリインフルエンザ | OIE Disease Information 25 (18): (24 June 2005)   | 中国の新疆自治区の1農場にて(ガチョウ1201羽、あひる60羽飼養)で63羽が死亡し、117羽が殺処分され、近所の1373羽も処分されている。病原性トリインフルエンザH5N1が原因との報告。   |
| 42 | トリインフルエンザ | CDC Flu Home July 21, 2005<br><a href="http://www.cdc.gov/avian/outbreaks/avian/htm">http://www.cdc.gov/avian/outbreaks/avian/htm</a>                         | アジア諸国での家禽におけるアウトブレイクおよびヒトでの散発なH5N1感染症例の報告。  |
| 43 | トリインフルエンザ | The New England Journal of medicine 352: 333-340, 2005  | トリインフルエンザH5N1ウイルスは8つのアジアの国で家禽病を引き起こし、少なくとも44人が感染し、32人が死亡した。感染した大半の人が家禽と密接に接触していた。ヒト-ヒト伝播の証拠は未確認である。   |
| 44 | トリインフルエンザ | 小児 46: 475-480, 2005  | 鳥インフルエンザとヒトとの関わりを概観した、東南アジアでの流行について解説。  |
| 45 | ウイルス感染    | Journal of General Virology 85:3377-3382, 2004  | ブタ由来の市販ペプシンの非病原性ブタサーコウイルス1型(PCV1)および病原性2型(PCV2)DNAの検出と特性解析の報告。  |
| 46 | ウイルス感染    | Veterinary Microbiology 104: 113-117, 2004  | 地理的に異なる地域の豚に由来する豚ヒトTTウイルス(TTV)の特性の遺伝子的評価。   |
| 47 | ウイルス感染    | Intervirology 48: 216-222, 2005   | 血液透析患者でのSENウイルス(SENV)の高罹患率について。   |
| 48 | ウイルス感染    | CDC/MMWR 54: 269-272, 2005  | 2005年1月26日、ミズーリ州で4例のPseudomonas fluorescens血流患者がCDCに報告された。全患者は、留置した中心静脈カテーテルによる血液凝固を防ぐため、ヘパリン/生理食塩水のフラッシュを受けていた。フラッシュ液は、IV Flush社製造、Pinnacle Medical Supply社(Rowlett, Texas)販売の充填済みシリンジであった。培養検査の結果、カテーテルを通した血液やIV Flush社製の未開封のヘパリン/食塩水シリンジにおいて、P.fluorescensの増殖を認めた。 |
| 49 | ウイルス感染    | CDC/MMWR 54: 537-539, 2005  | マサチューセッツ州及びロードアイランド州における臓器移植レシipientのリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)について。  |
| 50 | ウイルス感染    | Health Canada June 5 2005<br><a href="http://www.phacasc.gc.ca/media/nr-rp/2005/2005_21_e.html">http://www.phacasc.gc.ca/media/nr-rp/2005/2005_21_e.html</a>  | PHACの科学者がヒト以外の霊長類において効果を示したエボラおよびマールブルグウイルスに対するワクチンを開発したこれらのワクチンがサルにおいて効果的であると示唆されたことにより、ヒトでの使用に対する実際的な可能性の見込みの指標になったことなどの報告。   |
| 51 | ウイルス感染    | OIE Disease Information 26 (18): (1 July 2005)  | 2005年4月より、米国中西部(アリゾナ州およびコロラド州、モンタナ州、ニューメキシコ州、ユタ州、ワイオミング州)において、ウマおよびウシにおける水胞性口炎が発生した。米国農務省の植物保険検査局により、節足動物の管理、感染した家畜施設の隔離、感染の調査が実施されている。   |
| 52 | ウイルス感染    | 米国カルフォルニア州ロスアンゼルス群保険局HP   | カルフォルニア州にてstreptococcus equiによるウマ線疫が確認されたことから、その感染力の拡散を軽減するために保健局は健康なウマへのワクチン摂取を要求した。また、その感染の広がりや防止策の説明について。  |

| 番号 | 感染症(PT)          | 出典   | 概要  |
|----|------------------|--|---|
| 53 | ウイルス感染           | OIE Disease Information 27 (21): (27 May 2005)   | 米国での水泡性口内炎の発生。ニュージャージ型水泡性口内炎ウイルスと判明しているが、感染の起源など確定でない。APHISによる治療サービスや監視活動は、ニューメキシコ、テキサス、アリゾナ州の農務局により行われているとの報告。   |
| 54 | ウイルス感染           | Weekly Epidemiological record 18: 157-164, 2005  | インドネシア、アチェ州における津波後の流行しやすい疾病状況のサーベイランスおよび対応。   |
| 55 | ウエストナイルウイルス      | AABB Weekly Report 20 May 2005   | 2005年5月11日のCNN Reportによると、このワクチンはAcambisが開発し、安全性試験が現在も実施中で最低3年は販売する見込みがない。この西ナイルウイルスワクチンは承認されている黄熱ワクチンから遺伝子組み換えワクチンとして開発され、予備試験の結果より、NIAID(National Institute of Allergy and Infectious Diseases)は開発初段階であるが、このハイブリットワクチンの安全性は特筆すべきであろうと指摘したことなどについて記載。            |
| 56 | BSE              | カナダ食品検査HP<br><a href="http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/2investe.shtml">http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/2investe.shtml</a> | カナダで2症例目となるBSEの調査。<br>1996年に出生した8歳の乳牛にてBSEが確認された。CFIJ(カナダ食品検査庁)はこの牛が生まれた年の間に肉骨粉を含む飼料を通じてBSEの感染レベルは低いことを明らかにした。<br>曝露の程度や潜伏期間の関係から、この牛の年齢から、肉骨粉を含む飼料の禁止が法的に禁止となった1997年の飼料のBSE感染力は最も少ないであろうと裏づけた。   |
| 57 | BSE              | カナダ食品検査HP<br><a href="http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/3investe.shtml">http://www.inspection.gc.ca/english/anima/heasan/disemala/bseesb/ab2005/3investe.shtml</a> | カナダのアルバータで3例目となるBSEの調査レポート。   |
| 58 | BSE              | OIE Disease Information 26 (18): (1 July 2005)   | 当該ウシは歩行困難であったためBSE検査対象と判断された。2004年11月に米国農務省が最初の迅速検査を行ったところ、決定的でないことから、これに続いてIHC検査を実施した。この結果は陰性であったため、当該ウシは陰性であると結論。監査組織の指摘により、ICH検査で陰性であったものの、ウエスタンブロット法による追加試験が要請された。その結果、1つのサンプルから陽性が確認され、このサンプルはイギリスのウェイブリッジ研究所へ送られ、ウエスタンブロット法およびICH検査が実施され、いずれも陽性であることが確認された。 |
| 59 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省HP報道発表資料<br><a href="http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/02/h0204-3a.html">http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/02/h0204-3a.html</a>   | 平成元年頃、1ヶ月間英国渡航層のある男性にて、国内における最初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)例として確定された。輸血歴無ことから、短期間ではあるが、英国滞在の曝露の可能性が現時点では有力と考えられる。  |
| 60 | 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR Weekly 29(15)  | 新たな集団において確認された変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のリスクが増加について。  |
| 61 | コロナウイルス感染        | Nature Letters 436:112-117, 2005   | ACE阻害剤が、マウスでSARSウイルスの重要なレセプターであり、SARSウイルスに感染したマウスに注射したところ同ウイルスが阻止され、またマウスの急性肺炎障害から保護した。予備的ではあるが、ACE阻害剤がSARS感染者および急性肺炎患者の治療に有用である可能性が示唆されている。  |
| 62 | サルモネラ            | Emerging Infections Diseases 10: 1665-1667, 2004   | ニューヨークとシカゴにてウガンダ血清型と識別されたsalmonella enterica 株に関連した流行が発生した。同血清型はヒト感染源としてさらに高頻度に出現する可能性があるとして示唆している。   |
| 63 | サルモネラ            | Epidemiology and infvction 132: 881-887, 2004  | 2001年ドイツにて、発酵ソーセージの摂取とSalmonella Goldcoast(SGC)感染との関連性があった。サルモネラを減少させるには照射殺菌が有効であるが、ドイツの消費者は生材料の照射殺菌を好まない。よって、HACCP等の管理が必要である。  |
| 64 | サルモネラ            | Emerging Infectious disease 12: 2225-2227, 2004  | Salmonella enterica serovar Typhimuriumがオランダの糞状のブタ、子牛、小児から分離された報告。<br>非食品媒介性の動物間及び動物-ヒトの伝播である事を示唆しており、ブタを経由した可能性が高い。家畜と密接な関わりを持つ者は、一般的な衛生上のガイドラインを厳守するべきと示唆している。  |
| 65 | ニパウイルス           | 臨床と研究 81: 1600-1604, 2004  | ニパウイルスについての過去の事例と最近の事例について明確になった事実を解説。  |
| 66 | ニパウイルス           | 日刊メディカルサイエンスダイジェスト 1: 19-22, 2005  | ニパウイルスの出現、生態、症状と感染経路、診断、治療、予防についての解説。   |
| 67 | ニパウイルス           | Pharma Med 11: 39-42, 2004   | ブタと密接に関連して人に被害を及ぼす日本脳炎と、近年、熱帯地域マレーシアで出現したニパウイルス感染症について。ニパウイルスは、新種ウイルスによる新興感染症であり、人では日本脳炎に類似した脳炎症状を発症する。日本脳炎との相違は、ニパウイルスでは急性脳炎を発症し、回復した患者のうち7.5%が2年以内(平均8.5ヶ月)に脳炎の再発を経験している。   |
| 68 | ニパウイルス           | ICDDR<br><a href="http://www.icddr.org/images/HSB_22_person1.pdf">Http://www.icddr.org/images/HSB_22_person1.pdf</a>   | ニパウイルスのヒト-ヒト伝播が2004年、バングラデッシュのFaridpur地区にて発生した流行に関して、ICDDRによって報告された。確定患者36名中、27人が死亡。また、ニパウイルス感染の特徴として以前には知られていないARDS(急性呼吸窮迫症候群)が少なくとも6人の患者にて認められた。  |

| 番号 | 感染症(PT) | 出典  | 概要  |
|----|---------|---|---|
| 69 | ニパウイルス  | ウイルス 54: 237-242, 2004  | マレー半島、バングラデッシュ両地域におけるニパウイルス感染症の流行の比較と、これまで明らかになっている疫学的背景や、現在のウイルス学的研究の進展状況について。   |
| 70 | ノロウイルス  | Journal of Clinical Microbiology 43: 657-661, 2005  | ノロウイルス(NV)について、ヒトNV2種及び豚NV1種(SW918)に由来する組み換えカプト抗原を用いて、家畜豚の抗体保有率の特徴を検討した。その結果から家畜豚間でNV感染が広まっていること、SW918とヒトNV間で抗原性が類似していること、家畜豚で抗ヒト抗体が検出されたことから、人畜共通疾患としてNV胃腸炎を検討する必要があるとのこと。                                     |
| 71 | ハンタウイルス | Journal of Clinical Microbiology 43: 2756-2763, 2005  | 中央ヨーロッパのスロバキアにおいて捕獲した野生のセズジネズミから、ハンタウイルスの一種であるDobravaウイルス(DOBV)が分離され、当該ウイルスが中央ヨーロッパにおける腎症候性出血熱(HFRS)の主要原因ウイルスであることが示唆された。   |
| 72 | ブタ連鎖球菌  | WHO   | 中国において、2005年6月末より、206名がブタ由来のStreptococcus suisによると疑われる感染症を発症し、38名が死亡した。発病したもしくは死亡したブタとの密接な接触がヒト感染の主要な感染源であると示唆されている。  |
| 73 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | 四川省で患者24人の死因となった病原性の高いブタの感染症が、中国本土の当局により同定された。患者らは、感染したブタを屠殺したり扱った際に、豚連鎖球菌Streptococcus suis2型に感染したことを確認した。ヒト-ヒト感染兆候は認められていない。  |
| 74 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | 中国南西部で死者19名と患者61名を出した原因不明の疾患は、検査の結果、患者は感染したブタの屠殺や処理の際に豚連鎖球菌Streptococcus suisに暴露し感染したことが明らかになったと保健省が2005年7月25日発表した。   |
| 75 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | ブタの細菌である豚連鎖球菌Streptococcus suisによる患者117名中、死亡患者が24名に増加した。ヒトへの感染伝播は稀であるが、四川省の事例での死亡率の高さは警戒を要する。   |
| 76 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | 香港在住の男性が最近豚連鎖球菌に感染したと7月28日に報告されたが、これによって、2004年5月以来の香港での患者数が10名となった。   |
| 77 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | ブタレンサ球菌感染症により36名が死亡し198名が感染した中国南西部で、ブタの疾患への対策としてワクチン接種が行われている。異常に多い感染者数のため、科学者は、ヒト-ヒト感染が起きているのではないかと、あるいは、全く別の疾患によるものではないかと疑っている。   |
| 78 | ブタ連鎖球菌  | ProMED  | 四川省でのブタ由来の疾患で通常より高い死亡率の原因は、短い潜伏期と多臓器不全(MOF)であると医学専門家が述べた。   |
| 79 | ブタ連鎖球菌  | Health Canada   | 8月3日現在、四川省保健局は死亡38例、重篤症例18例を含むヒト疾病症例206例を報告した。中国における初期の疫学的調査により、感染症はブタもしくはブタ製品に職業的に暴露(感染したブタを屠殺もしくは取り扱いに関与したなど)した人々に限定されている。中国当局はヒト-ヒト伝播症例は発見していない。WHOはこの規模のアウトブレイクは通常Streptococcus suisではみられないため、状況を厳密に監視している。 |
| 80 | レトロウイルス | Transplant immunology 13: 15-24   | 豚ブタ内在性レトロウイルス感染について。豚末梢血単核球(PBMC)をドナー組織として使用し、ヒト化重度複合免疫不全(SCID)ベジューマウスにおける豚内在性レトロウイルス(PERV)伝染について調べた実験結果よりPERV感染のみに原因があるマウスはいなかったとの報告。  |
| 81 | レトロウイルス | Transplantation a proceedings 37: 493-495, 2005   | ブタ内在性レトロウイルス(PERV)感染に関する報告。   |
| 82 | 寄生虫感染   | 養豚の友 426: 56-59, 2004   | 旋毛虫症に関する解説。更に旋毛虫症の特徴や食肉に関する安全対策における問題点について。   |
| 83 | 寄生虫感染   | Cellular Microbiology 6:867-881   | Hep-2上皮細胞によるS.suisの付着性と侵入性についての評価を行い、この実験結果から、S.suisNT株の侵入と生存が認められたことから、S.suisが遺伝的変異と調節によって幅広い毒性特性を示す裏付けが明らかになったとの報告。   |
| 84 | 狂犬病     | ペットポータル <a href="http://www.petportal.jp/m/archives/000167.html">http://www.petportal.jp/m/archives/000167.html</a>                   | 米国でドナーが狂犬病に感染していることを知らずに、臓器提供された4名が全員死亡するという事故が生じたこと、CDCが発表した。  |
| 85 | 結核      | CDC/MMWR 53: 605-608, 2005  | 2002~2004年において、ニューヨーク市でのウシ結核が原因のヒト結核について。   |
| 86 | 口蹄疫     | OIE Disease Information 18(12): (25 March 2005)   | 香港にて典型的な口蹄疫ウイルス症状が報告され、過程等は不明であり、調査は継続中とのこと。  |
| 87 | 口蹄疫     | Rev sci Tech 21: 465-475, 2002  | 1996~2001年の間での東南アジアにおける口蹄疫への規制と撲滅への取り組みに関するレポート。  |
| 88 | 口蹄疫     | <a href="http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html">http://forbes.com/work/feeds/afx/2005/06/22/afx2105052.html</a> | Beijing(北京市)において、ウシでの新たな口蹄疫発生の報告。   |

| 番号 | 感染症(PT)    | 出典   | 概要   |
|----|------------|--|--|
| 89 | 口蹄疫        | OIE Disease Information<br>19 (18): (13 May 2005)  | 中国のJiagsu(江蘇省)とShandong(山東省)で、それぞれ1ヶ所にて、口蹄疫の発生が確認された。農場すべてのウシが処分された。ウイルスタイプはAsia1。感染の由来は調査中。                 |
| 90 | 口蹄疫        | OIE Disease Information<br>26 (18): (1 July 2005)  | 中国の河北省長家口市(Zhangjiakou)にて263頭を飼う農場にて4頭が、口蹄疫に罹病し全例が処分された。   |
| 91 | 口蹄疫        | OIE Disease Information<br>29 (18): (22 July 2005) | 中国における口蹄疫感染群の概要。甘肅省(Gansu)のPingliang市、青海省(Qinghai)のHuangnan地区にて、それぞれ1箇所の発症報告。口蹄疫ウイルス血清型アジア1。感染由来については調査中。    |
| 92 | 重症急性呼吸器症候群 | Emerging Infectious<br>disease 11: 446-448, 2005   | 重症急性呼吸器症群関連のコロナウイルス(SARS-Cov)がSARS流行語のウイルス感染経路調査中に、1頭の豚から分離された。配列および疫学的分析により、その豚はヒト由来のSARS-Covに感染したことが示唆された。 |
| 93 | 炭疽         | ProMED<br>200500605-0060<br>30 May 2005            | Rostov地域ロシア連邦菌球事態省よりDobovsk村にて屠殺されたブタより単発例の炭疽菌が発見されたと報告された。追加検査でこのブタが炭疽に感染している事が確認された。                       |